

2017年度 チーム医療演習実施報告

▶横田 浩充



チーム医療演習が8月8日(火)・9日(水)の日程で、クロス・ウェーブ船橋(千葉県船橋市)にて開催された。本演習は学部の枠を越えた全学共通教育として行われており、今年で9回を数える。

今回の演習は、①チーム医療を進める上で各職種の専門性(知識、技能)と役割を理解する ②事例から他職種の役割と多職種間の連携・協働について考える、この2つをテーマとして構成した。それぞれの職種(医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師)をめざす学生による混成チームでのチームアクティビティを通じて、多職種連携のチーム医療を学ぶことを狙いとした。参加した学生は41名(医学部8名、薬学部14名、理学部14名、看護学部



5名)で、各学部混成の7チームを編成し演習を行った。また、山崎純一学長をはじめ4学部の教職員、さらに本学医療センターの医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、栄養士、ソーシャルワーカーの方々にご参加いただき、適宜、助言および指導をいただいた。

初日はチーム医療についての座学の後、チームアクティビティ①を開始した。各チームの学生同士が自己紹介をしたあと、各職種の専門性について協議、相互のコミュニケーションを取りながら意見を集約し、その結果を発表した。続いてチームアクティビティ②では、チーム医療を実践するために必要な各職種の役割を議論し、その専門性と役割を確認、その結果を発表した。



2日目のチームアクティビティ③では、チーム医療の実践編として3つの事例に対して、患者が抱えている問題、疾患の分析も含め、解決に導くための各職種の協働について議論した。学生は実際の事例から各職種の専門性を相互に学び、医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、栄養士、ソーシャルワーカーの方々から専門性のある仕事内容の説明、助言をいただき、連携したチーム医療とは何かを考え、資料を作成、結果を発表した。

今年も各チームの発表は大変優秀で、実際の現場ですぐにでも活躍できるほどであった。

(理・教育開発センター臨床検査技師課程・教授)